

1 研究主題・副主題

○研究主題

学び合い、高め合う子どもの育成をめざして

○研究副主題

理科・生活科における言語活動の充実を通して

2. 研究主題・副主題設定の理由

(1) 学習指導要領の基本的な考え方や今日的な教育課題から

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。その求められている力を一言で示すとすれば、学習指導要領の「生きる力」(確かな学力、豊かな心、健やかな体)である。

また、学習指導要領では、生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、言語活動を充実することが示されている。

PISA調査などの国際調査の結果から、日本の子どもたちには、学力は国際的に見て上位にあるが、科学への興味・関心や科学の楽しさを感じている割合が低く、観察実験などを重視した理科の授業を受けていると認識している割合が低いという状況が見られている。このような課題を踏まえ、新学習指導要領では、理数教育の充実が示され、小学校理科においては、問題解決の能力をはぐくみ、科学的な見方・考え方を養うために、観察・実験の一層の充実、言語活動の充実が求められている。

生活科でも、「直接体験を重視した学習活動」を行うことがより一層重視されている。生活科で豊かな体験を数多く積み重ねることによって、自然体験や生活経験の不足を補えるのではないだろうか。スタートカリキュラムとして生活科の果たす役割は、その重要性を増してきている。生活科の活動や体験がその場限りで終わらないように、言語活動を充実させ、気付きの質を高めていく学習展開が求められている。

(2) 学校教育目標の具現化

学び合うとは、集団の中で自分の考えを伝え合えること、互いのよさを認め合えることである。そのためには、自分の考えを持ち、自分の考えを伝え、友だちの思いや考えを聞き、自分の考えを振り返ることが必要である。学び合う子は、授業の中だけでなく、道徳や特別活動、総合的な学習の時間、休み時間や給食・清掃など日常生活のあらゆる場面で培われる姿であり、学習集団づくりが求められる。

高め合う子とは、授業や日常の生活における学び合いの中で、友だちとつながることで変容する姿、すなわち、学びの良さを感じる子、自分の伸びを実感する子、次の学習への意欲を持つ子等である。1時間の授業で、すべての子どもがこのように変容することは難しいと考えられるが、高め合う子に近づけていくための授業づくりをめざしていきたい。

(3) 研究の経過から

本校では、これまで「対話」を核とした授業づくりに取り組んできた。対話技能系統表を作成し対話技能の目標やステップを明確にするとともに、「対話」を授業の中に位置づける実践を積み重ね

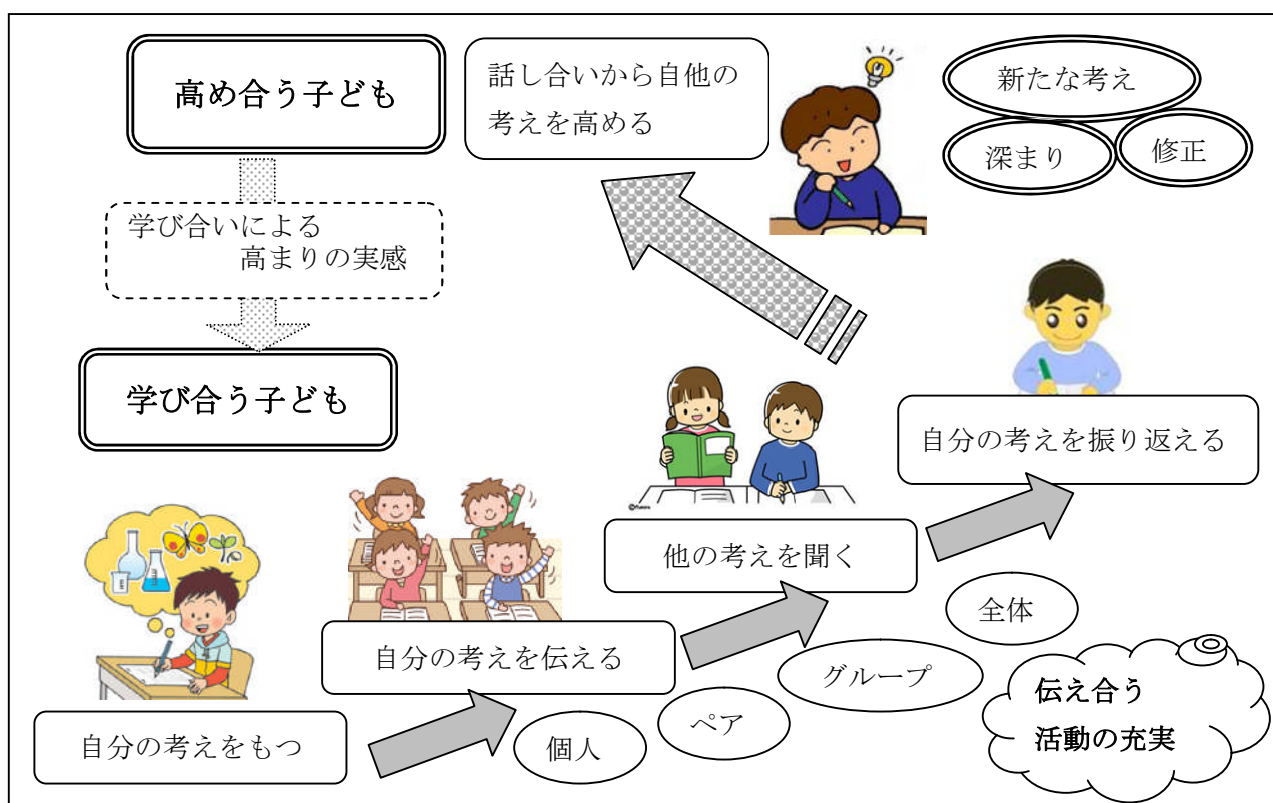
てきた。昨年度は、子どもたちが自分の気付きや考えを「伝え合う」こと、そしてお互いの考えを「認め合う」ことに焦点を当て、子どもたちの「伝えたい、聞いてもらいたい」という内発的動機を大切にするために、教材の効果的な提示方法、教材から子どもたちに何を読み取らせていくのかといった授業づくりに重点を置いて研究を進めてきた。

これまでの「対話」「伝え合う」「認め合う」研究をベースとして、本年度は、理科・生活科における言語活動の充実を図ることによって、「学び合い、高め合う」授業づくりをめざしていきたくと考えている。

3. 研究内容

① 学び合い、高め合う

学び合い、高め合う子どもを育成していくためには、日々の積み重ねが大事である。学び合う子の土台が無ければ高め合う子の実現はできないであろう。これまで培ってきた研究の成果を生かしながら、伝え合う活動場面でペア、小グループ、学級全体など多様な形態をとりながら学び合いを充実させていくことが必要である。そして、学び合うことで自他の考えを高め合うことを実感できたとき、新たな学び合う子の土台となっていくものとする。

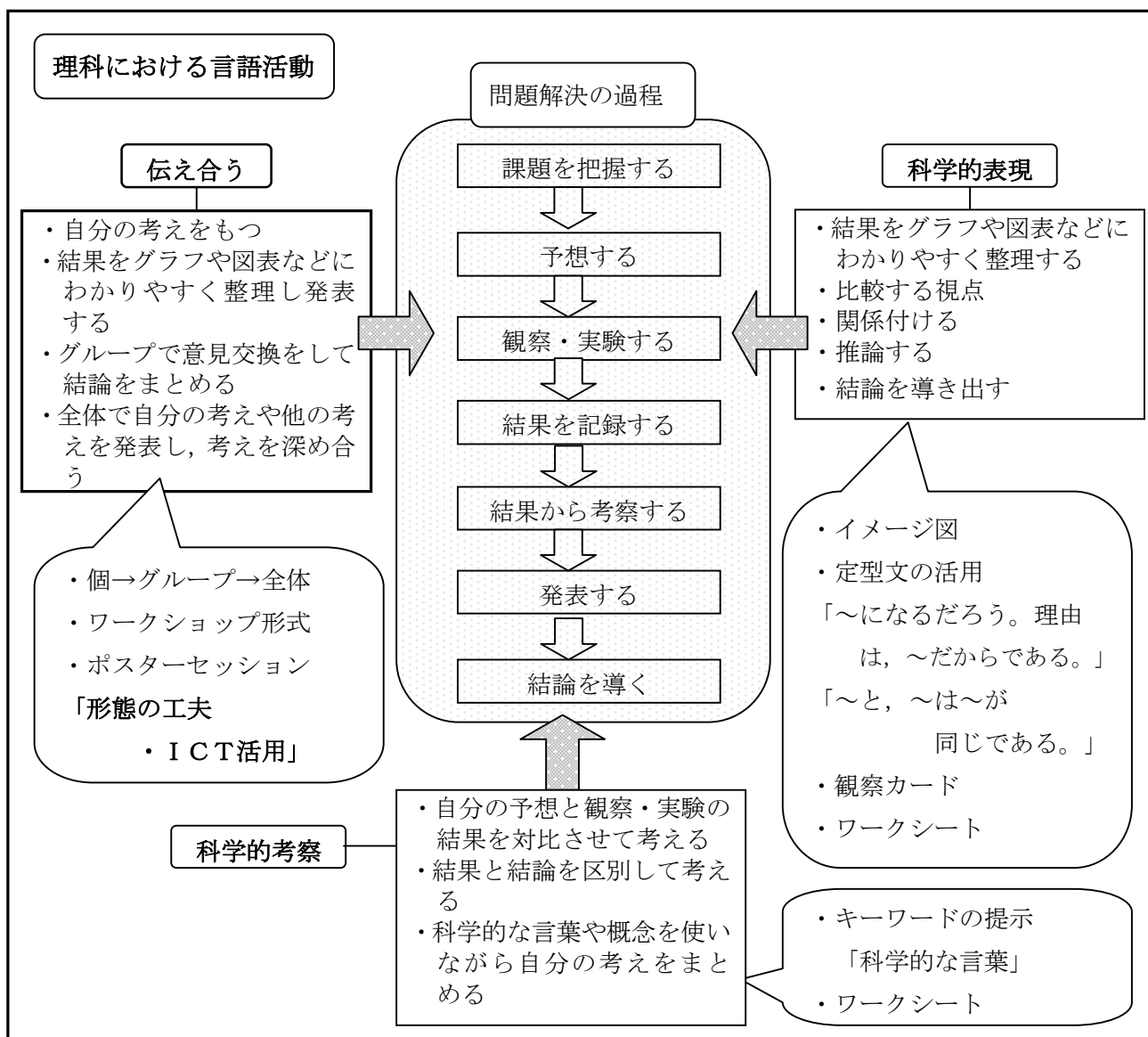


② 理科・生活科における言語活動の充実

伝え合う活動を充実させるためには、伝え合う内容の質的な高まりが必要不可欠である。言語活動については、国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実を図っていかなければならない。

理科における「言語活動の充実」とは、科学的な思考力や表現力等をはぐくむために、観察・実験の結果を整理（分析）し、考察（解釈）する学習活動や、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの活動を発達の段階に応じて充実させることである。このことは、理科授業でもつ

とも大切にすべき主体的な問題解決の活動において、新学習指導要領の目標に加わった『実感を伴った理解』にも繋がる重要なことである。伝え合う活動を充実させ、「学び合い、高め合う」授業を展開していくことによって、実感を伴った理解という理科教育の目標の達成も可能になっていくと考えている。



生活科では、子ども一人一人に思いや願いをもたせ、活動の中で得られる気づきを大切に、その気づきの質を高めていくことが求められている。その重要な要素として言語活動を充実させるは欠かせないものである。しかし、言語活動の前に大切にしなければならないことは、その子なりの思いや願いをもたせることである。思いや願いがなければ活動を通して楽しさや自己の成長、知的な気づきなどを引き出すことは期待できない。一人一人の思いや願いを大切に、気づきの質を高めることによって、自然の不思議さや面白さを実感し、科学的な見方・考え方の基礎を養っていくことができる。生活科で培った力が、3年生以降の理科の学習の基礎となっていくような実践を模索していきたい。

生活科の言語活動と気づきの質の高まり

